

今ならまだ間に合う！
蔓延する前にSTOP！

キュウリ黄化えそ病の防除対策

どんな病気？

ウイルス：メロン黄化えそウイルス（MYSV）

症状：生長点付近の葉脈黄化、モザイク、退緑斑点、生育抑制など。果実にはほとんど症状を示さないとされているが、一部の品種でモザイク症状が出ることもあります。

伝染源は？

ミナミキイロアザミウマによって媒介されます。

幼虫時MYSV感染植物を吸汁することで体内に保毒し、終生伝搬能力を持つが、経卵伝染はしないとされています。種子伝染、土壌伝染はしません。

他の植物にうつるの？

キュウリの他にメロン、スイカに自然感染します。またトウガン、ユウガオ、ヘチマ、ニガウリ、ペチュニア、タバコ等もMYSVの宿主となります。雑草も感染源として注意が必要です。

どうやって防除すればいい？

なんとしても感染源を絶つ事です。

ウイルスを保毒しているミナミキイロアザミウマを根絶しましょう！

1 苗

- ◆ 健全な苗を使用しましょう。色の変な苗はありませんか？
- ◆ ミナミキイロアザミウマの全くいない環境で管理しましょう。ハウス開口部にネットをはり(0.5mm以下)、粒剤でミナミキイロアザミウマを防除するなど。

2 定植後

- ◆ ハウス開口部はネットで覆い(0.5mm以下)ミナミキイロアザミウマの飛び込みをふせぎましょう。
- ◆ ハウス内部には青色粘着トラップを設置し、ミナミキイロアザミウマの早期発見に努めましょう。アザミウマが低密度でもウイルスは感染します。
- ◆ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、ローテーション散布してください。
- ◆ 発病株がある場合は必ず抜き取りほ場外に持ち出し埋没処理するなど、感染源にしないようにしましょう。
- ◆ ほ場内外の雑草はミナミキイロアザミウマの増殖場所になるので除去しましょう。
- ◆ 紫外線カットフィルムを使用するとミナミキイロアザミウマが感じる波長の光を遮るため、野外からの飛来は少なくなるといわれています。

3 作期終了

- ◆ ハウス内部には保毒虫がいますので、外に出してしまうとまた次作の感染源になります。ハウスを密閉処理(夏場10日間)して、ミナミキイロアザミウマを殺してから残さを片づけましょう。
- ◆ ほ場周辺の雑草はミナミキイロアザミウマの発生源となるので除去しましょう。

主な症状



感染初期～中期
葉が退色する症状



感染後期
葉に退緑斑点する症状



感染株の症状

参考 MYSV が発生したことのある県（平成17年6月1日現在）
静岡県、群馬県、神奈川県、福岡県、高知県、三重県、佐賀県、熊本県、埼玉県

連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
電話 0561-62-0085
FAX 0561-63-7820

